

平成 30 年度 バルツァ・ゴードル事業報告

看護療育部

【看護療育統括】

看護療育部「質」「安全」「向上心」「経営意識」を目標に掲げ実践した。創意工夫のもと目標に向かっての業務実践は、評価のライン内で達成できたと考える。

目標の達成・成就のために必要な人材確保も、活性、充実化とリクルート活動により現在まで看護基準も大きな危機なく保たれている。

しかし、利用者の看護必要度の上昇、呼吸器 2 台の導入を含む利用者の重症度の変化、ショート利用者数の増加など、スタッフの持つ看護力と仕事量のバランスに不安を覚えているスタッフからの声が上がっている。その点においてはバルツァ組織全体の視野からの業務改善や 2 階病棟の一般化への移行など看護度の平たん化への対策移行など近々の課題である。

療育スタッフ（介護福祉士等）に関しては入職の動きも乏しく看護スタッフの業務へと移行している現状である。

対策として、外国人実習生の受け入れを来年度より導入を予定しているが、現状の中で、外国人実習生の受け入れに際して下記の課題もあり工夫した対応が求められる。

- ① 無資格の就職者の就職後の教育育成体制（資格の習得含む）
- ② 助手スタッフ（完全無資格者）の業務改善
- ③ 外国人スタッフに関して、感性・文化・習慣。などに関する対策、スタッフ養成が求められる。

利用者数に関して現行の 70 床（ショートステイ 8 床）平成 29 年度一年間のベッドの稼働率 94,6%から平成 30 年度のベッド稼働率 95,7%の上昇している。引き続き病床数の確保、増床を目指す必要性も高い。しかし感染症の問題も大きく立ちだかり「隔離部屋の確保」「病棟分離対応」「居住スペースの確保」など現存しているため今後の工夫が求められる。

地域への社会貢献として看護学校、看護大学、介護福祉士養成校、等の臨床実習の受け入れおよび各種団体よりの施設見学対応など引き続き行いながら地域が求めるニーズに常に対応している。

【外来】

今年度も 1 名の外来担当看護師での業務の実践であったが、・外来者への診察介助・装具・座位保持装置作成介助・制作業者と家族とのメッセージ業務などに課題もあり、今年度は各階からの 1 名ずつの外来担当看護師配置の確立が必須と考える。

その他、地域や外部交流、他病院受診時の付き添いなど地域の交流を含めて充実する地域貢献を目指す。

【1 病棟】

1. 利用者を尊重した質の高い看護・療育の支援を行う。

1) サービス支援計画に沿った支援を実施する。

個別支援計画については、利用者の体調に合わせ計画を進める事が出来た。

2) 園外活動へ、全員が参加出来るように、企画、調整を行う。

今年度も昨年度と同じく、春と秋の季節の良い時期に 1 人 1 回、実施出来るように計画を行う。

春は、天候や体調等で予定していた利用者の日程変更等などの調整を行い、予定者の全員が実施できた。秋は予定していた利用者が他病院での治療中や感染症による病棟閉鎖で 3 名が園外活動を実施することができなかった。3 月に 3 名の対応を行う方向で計画する。

3) 3大行事へ利用者全員が参加出来るように、体調管理と企画運営を行う。

7月の納涼祭は雨の為中止。

10月のフェスティバル利用者は全員とショート利用者も参加できた。21家族28名の参加有。

12月クリスマス会は他病院へ入院中の利用者1名以外28名が参加出来た。ショート利用者も家族がクリスマスプレゼントを事前に準備され一緒に楽しむことができた。20家族31名の参加有。

特別企画としディズニーアバサダーとミッキーとの触れ合いが12月6日開催される。

利用者1名が発熱で全体の場には参加出来なかったが居室までディズニーアバサダーとミッキーの訪問を受け利用者全員が触れ合う事が出来た。

4) ケースカンファレンスを月2回定期的に実施する。

6月より毎週月曜日の15:30開始で始める。カンファレンスの進め方については連絡ノートを使用し伝達したがやり方が分からない等の発言も聞かれた。やり方はともかく、看護計画の評価と見直しを趣旨として開催を行った。やる事に不満等は出なかったが、スタッフから自主的に集合をかける事が少なかった。リーダーとなるものが合図をかけなければ流れてしまう傾向はあった。結果、一人1回は実施する事が出来たが、2回目を全員が実施するのは出来なかった。話し合いの結果から、カルテへの反映がなかなか個人差で計画修正までの過程がカルテへ記載活かされていない状況が多かった。

継続して行うことで、問題の共有化や対策など広く検討ができた。次年度は計画修正を一人で行う事には負担があるので、その場で記録に反映できる手法でのカンファレンスを行い個人への負担を軽減する対策も検討が必要である。

2. 安全な看護・療育環境の整備を行う。

1) 月1回のインシデントカンファレンスを定着化する。

インシデント61件(4月~12月) インシデントレベル0-8件 1-46件 2-4件 3-2件(骨折2件)
チューブ関係やパルミコートの忘れなどが多かった。

月1回のインシデントカンファレンスを定期的で開催する事は、インシデント発生のタイミングや当事者が居ない等で出来なかった。しかし、全体で検討が必要な事や、早急の改善や対策が必要な内容については適宜実施する事が出来た。

インシデントの中で、パルミコートの実施忘れが、月2回は発生する状況があり、使用日の記入、実施サイン用紙の使用等改善を行い、いつ誰の時に忘れたのかは確認できるようになったが、以前として、インシデントが発生している。

2) 0レベルインシデント段階での気付き報告増え事故防止につなげる。

今年度は、アクシデントの発生は0

3) 委員会活動や役割を通じて、病棟運営の活性化が出来る。

各委員会活動で、実際活動しているのは、行事委員、感染委員、実習指導者会、サービス管理者は定期的な委員会活動を行っている。防災委員会担当者に関しては、夜勤を調整の中で計画的に参加させることができず、代理出席が多くなっていた。

行事委員は、準備の段階から家族を巻き込む等工夫がなされ、保護者の方の参加協力の意識も上がっていたように感じた。しかし、担当者の負担は大きく、協力体制もしているがなかなかスタッフを巻き込むことができないまま抱え込んで行っている事もあった。頑張っても、結果が評価となるため成果が報われないところも、継続してやりたくない役割になりつつある。スタッフが順番に体験することがこの役割の負担を共有化できると思うので、役割を振り方も考える必要もある。

4) 新人、既卒者採用時オリエンテーションを前期に整備する。

新人の採用はなかった。既卒者の採用者は、1名で重症心身障害児に関わる事が初めてで少し経験がある方の採用者があった。オリエンテーション指導に置いて、2週間以上をかけて、全利用者の対応を指導者がペアで付、実地指導を行い、その後も1か月間は指導相談の看護師を配置しサポートを行った。大きなトラブルも発生することなく導入できた。

3. 専門職として知識・技術の向上を図る

1) 看護記録の記載方法の見直しと更新を行う前期で行う。

看護記録の方法を見直す中で、病棟で解決できる課題ではなく、施設全体で検討が必要と捉えた。新たに委員会を立ち上げるには、メンバー選出等の課題もあり、実習指導者会のメンバーが病棟の指導的役割を担っていると捉え、実習指導者会に記録員会を発足させて12月より取り組みを始めた。

2) スタッフ各自の成長の為、希望する院外研修へ全員が1回以上参加する。

研修会への参加状況は別紙参照

3) 日々の関わりを、症例報告として1例まとめ発表できる。

小児の食事に関する取り組みを、テーマ「栄養剤から胃瘻職への導入を試みて」でまとめ、近畿地区重症児(者)施設職員研修会で発砲を行う。

4. コストと意識を持ち施設運営への参画を行う。

1) 新規入所者2名の受け入れを進める。

新規入所者は1名受け入れを行うことができた。

今年度は利用者の病状変化に伴う治療のため、他病院への入院治療が5名あった。これに伴う患者数の減、他病院への診察も10か月で他病院への受診50回 平均5回/月、治療の結果人工呼吸器使用者2名と看護度が上がる。骨折は2名(左下腿骨骨折、第1趾基節骨骨折)保存的に治療し治癒

2) 短期入所者用病床を、年間を通じて稼働させる。

今年度は、10月床の張替え工事、11月からのRSウィルス感染やインフルエンザウィルスによる病棟閉鎖が続きその間は、ショート利用を中止せざるを得ない状況が後期続いた。

4月~1月まで、利用日数214日平均19.45日 延べ利用者数59名 平均5.3名の利用

3) 死蔵品の整理を前期で行う。

衛生材料の見直しを行う中で一部出来た。しかし、使用頻度が低い物品(呼吸器に関する物品等)は、緊急で使用する物品のため、期限切れで補充とするため死蔵費として無くなることのないのが、課題ではある。

4) SPD物品の定数見直しと、コスト意識を持ち見直し等も検討する。

製品の見直しと価格の検討を行いより使用しやすいものへの変更を適宜行った。

感染症廃棄物の分類への注意や、感染委員のスタッフへの意識付けの活動が大きな廃棄費用のコストダウンに繋がった。

SPD物品については、利用者の重症化や医療行為の増加に伴い新規の衛生材料導入など増加している。今後の材料費の高騰に対しどのように対処していくか見当も必要となっている。

【2 病棟】

1. 利用者を尊重し個別性を高めた支援を行う。
 - 1) 個別支援計画に基づいた支援活動を行う。

@年間計画に沿った療育活動に参加していただくことを主な目標とし、園外活動を始め、病棟内での活動に関しても概ね支援活動ができた。しかし、記録内容・記録のタイミングなどは業務の中で見出せず、時間外となることもあった。記録の質（個別性）に関しても課題を残している。
 - 2) 利用者の個々に合った活動を行い、楽しさを提供する。

@園外活動の動物園、奈良公園、郡山イオンなどは実施できたものの、利用者の個々の目標・目的に沿う内容に関してはもう少し検討が必要である。また楽しさに関しては評価しにくいだが、実施の状況の写真など表情を観る限りは、提供できたのではないかと考えられる。
 - 3) 表情豊かな利用者と共に歩み、看護・療育の支援を行う。

@看護は、変わりゆく利用者の医療度・重症度に合わせて、安全安楽を考慮し支援を実施しつつ業務の内容も検討している。課題は多い。療育は共に歩む姿勢をもち関わっている。来年度も引き続き利用者の笑みを絶やさないよう関わっていく。
2. 安全・安楽な看護・療育環境を整える。
 - 1) ヒヤリハットの全員周知で同じ様な事例を少なくする。

@ヒヤリハットに関する周知は、報告書の閲覧ファイルにサインを実施することではほぼ全員確認はしているが、内服薬に関すること、シヨート関連、Bチームでは転倒・転落、残飯等を食べてしまう行為など、イレギュラーな行動に対する対応など課題は残っている。
 - 2) 利用者の細かな変化にも気づき体調を悪化させない。

@風邪や発作後の対応などは、迅速に医師へ報告し比較的悪化することなく体調管理できているが、H31年1/11～1/23までは職員を含めインフルエンザの罹患による病棟閉鎖を実施する状況になった。職員8名・利用者7名罹患し蔓延してしまった。
 - 3) 利用者の安全を守る為に、職員の体調管理を行い、感染を持ち込まない。

@風邪等に対応はできたものの、インフルエンザに関しては上記の記載の通り、感染を持ち込んでしまった可能性もあり。目標の達成はできていない。
3. 職員のレベルアップによる質の向上・
 - 1) 看護計画の評価と見直しを定期化し向上心を高める。

@看護計画の評価・見直しに関しては1回/年ではできているが、4月・9月の2回評価の必要性に関しても周知はできていなかった。定期化に向けてはまずは2回評価できるようにすることを目指す。
 - 2) 院外研修に多くの職員が参加できるようプログラムする。

@院外の研修に関しては、看護師9名・療育5名が参加、15の研修

会に参加している。全ての職員が参加はできておらず、個人の目標を考慮し計画実施していく必要性があり。

4. 適切な病棟運営を図る。

1) SPDのシールの紛失の防止に努め、無駄をなくし適正な物品管理を行う。

@SPDのシールの貼り間違い（赤と黄色）、貼り忘れは時折あった。

1階病棟に保管している物品、2階病棟にてSPD管理している物品、直接電話で注文している物品など一部まとまっておらず整理が必要である。

2. ショートステイ利用者の利用促進の為、看護・療育協同して支援を行い利用増加に努める。

@ショートステイ受け入れに関しては、行政の要望を踏まえ、その必要性に関しては随時伝え、意識は向上してきている。また、受け入れ体制に関しても、看護師の役割、療育の役割を明確化しシステムの構築に努めている。

ショート受け入れ状況に関しては、H29年度での2階病棟の受け入れ延べ日数は372日で、H30年度においては、1月29日現在で373日と、2ヶ月を残した状況で同日を超えているため、増加しているといえる。今後に関しては、法人の方針に合わせて目標を設定していく。

薬剤課

業務内容は以下の通りである。

- ①定期薬の調剤、監査、定期薬カートへのセット
- ②臨時薬の調剤、監査、払い出し
- ③医師への疑義照会
- ④医師定期処方箋発行業務の代行
- ⑤短期入所の薬の確認、セット
- ⑥外泊時持参薬の用意
- ⑦医薬品情報の収集（PMDAメディアナビ、SAFE-DI等）
- ⑧医薬品管理（在庫の確認、発注、返品、期限の確認、病棟ストック薬の見直し）
- ⑨期限切れ薬品の集計、廃棄
- ⑩感染サーベイランスの作成
- ⑪医療監査項目の整備
- ⑫医薬品業務手順の見直し
- ⑬メーカーによる医薬品説明会の調整

また、薬剤課が深くかかわっている委員会は以下の通りである。

I. 感染対策委員会

月1回部課長会日の14:00より開催。

医師、看護師、療育、訓練課、栄養課、総務各課の代表と薬剤師により構成される。

活動内容は以下の通りである。

園長作成の感染症レポートにて院内感染の発生動向を委員会にて早期に把握し、利用者及び職員への伝播を最小限に食い止める。

また、院内における感染防止マニュアルの作成および改定は委員会の協議のもと行う。

医師（園長）による勉強会も開催時に行われ、職員全体でのスキルアップを図っている。

また、インフルエンザ発生等の緊急時は園長召集による臨時感染対策委員会が開かれ対策の検討を行う。

ICT ラウンドは月1回第2木曜日 10:00 より医師、看護師、薬剤師が行う。

病棟、外来での感染対策が継続して行われているかを項目別に確認する。

疑義項目があれば適宜検討する。

最後に

コスト意識を持って業務に臨めた1年であった。薬価改定を見据え、今後さらに不良在庫を減らし、在庫額の減少を念頭において業務を行っていく。

勤務時間が短いため、医師・看護スタッフ等から多大な協力を得たのは感謝すべき事実である。

リスク管理に関しては、ヒヤリ・ハット及び調剤過誤のない1年であった。

今後も薬剤師間で情報を共有し、利用者さんのことを第一に考えて業務を行っていきたい。

H. 30年4月～H. 31年3月 処方箋枚数、剤数

		外 来			入院(臨時)		入院(定期)		入院(臨時)
		剤数	枚数	注射(枚)	剤数	枚数	剤数	枚数	注射(枚)
H30年	4月	35	19	1	245	178	2515	350	18
	5月	27	16	0	185	150	2012	280	16
	6月	39	21	1	234	192	2012	280	15
	7月	55	23	0	247	216	2515	350	25
	8月	65	35	0	220	211	2012	280	29
	9月	35	19	1	204	179	2012	280	22
	10月	33	23	1	252	225	2515	350	38
	11月	40	20	1	404	353	2012	280	57
	12月	44	26	0	342	277	2012	280	28
H31年	1月	51	28	0	404	354	2012	280	27
	2月	58	29	1	252	211	2012	280	31
	3月	57	29	0	163	137	2012	280	23
	合計	539	288	6	3152	2683	25653	3570	329
	AVE. (Month)	45	24	1	263	224	2138	298	27
	AVE. (Day)	2.2	1.2	0.0	12.6	10.7	102.6	14.3	1.3

栄養課

食事提供においては、昨年度と引き続き大きな事故もなく無事終えることができた。厨房内の人員については、年度当初に委託会社の新人栄養士が配属されるなど体制づくりにおいて良いスタートをきれたと考える。しかし、年度後半より例年課題となる人材の安定化が課題になるような結果となった。全体の厨房業務については安定的に運営が出来ていたと考える。

施設側については、栄養士2名体制を確保できていることから、業務分担しそれぞれの仕事に取り組むことが出来た。

<反省・評価>

平成30年度は大阪樟蔭女子大学との共同研究に取り組み、施設内での課題であったゼリー食について厨房を巻き込み先に繋がる結果を得ることができたと考える。この結果をもとに次年度に本格的に稼働できる体制づくりを行っていききたい。次年度も引き続き共同研究を行い、施設側としての課題をクリアしていければと考える。また、経管栄養の栄養剤についても、目まぐるしく変わる患者さまの状況を把握し、内容の変更等に着手し、病棟内との連携を上手くとっていききたいと考えている。

栄養管理においては、胃瘻造設など患者様の状況が変わっていることを把握し、病棟との連携を密にし、よりよい栄養摂取につながる提案を行っていききたい。

給食管理においては、引き続き事故の内容食事提供を継続していくことが最大の課題となる。

<平成31年度の目標・課題>

- ・ゼリー食の提供継続と課題に向けた取り組み
- ・安心・安全な食事の提供
- ・栄養（再）評価及びNST運営の継続

【給食委員会】

委員会メンバー：医師・看護師長・療育主任・言語聴覚士・調理師または栄養士・管理栄養士

内容： 利用者の『食』に付随する事を、それぞれの専門知識を有する病棟スタッフと協議する委員会。

毎月1回実施。栄養課と病棟スタッフや他の専門職との意志疎通や連携を図る重要な機会である。

参加メンバーが各病棟の管理職が担うことにより、スムーズな話し合いを行うことができている。

【平成30年度の主な取り組み】

- ・食事関連のヒヤリハット事例の報告
- ・配膳時間など病棟と厨房との業務調整
- ・食事評価の報告の場
- ・病棟お誕生日会、クッキングの実施方法
- ・感染症発症時の食事対応の確認
- ・訓練課茶話会の開催日程確認
- ・行事食の報告

【平成30年度まとめ】

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

【次年度予定】

次年度も引き続き同じ形式で運営される。

2018年度 行事及び時節献立一覧表

開催月	日付	項目	主な内容
4月	複数日	春メニュー	筍ごはん、春野菜の天ぷら、いちご、春野菜料理
5月	5月5日	こどもの日	チキンライス(ハンバーグ添え)、南瓜の具だくさんポタージュ、フルーツ
6月	複数日	夏メニュー	冷やし中華、夏野菜カレー
7月	7月7日	七夕	七夕そうめん、蒸しシウマイ、スイカ、七夕カルピスサイダーゼリー
	7月20日	土用の丑	うなぎの蒲焼、胡瓜の酢の物、フルーチェ
	7月28日	夏祭り	焼きそば、たこ焼き、青梗菜のお浸し、チョコドームケーキ
8月	複数日	夏メニュー	夏野菜料理
9月	9月28日	十五夜	お月見ケーキ
	複数日	秋メニュー	お月見芋ごはん、秋刀魚の塩焼き、
10月	10月27日	秋祭り	エビピラフ、コンソメスープ、ヨーグルト、お汁粉
	複数日	秋メニュー	栗ごはん、秋刀魚の照焼き、秋野菜料理
11月	複数日	秋メニュー	きのこカレー、茶碗蒸し、秋野菜料理
12月	12月15日	クリスマス会	エビフライ、マカロングラタン、ミネストローネ風スープ ココナッツ風味フレンチトースト
	12月25日	クリスマス	ミートローフ、白菜のチャウダースープ、ブッシュドノエル
	12月31日	大晦日	年越しそば、鱈の酒蒸し
1月	複数日	冬メニュー	白菜と鶏肉の寄せ鍋風煮、冬野菜料理
	1月1日	お正月	赤飯、おせち、祝肴、雑煮、お正月ケーキ(栗のロールケーキ)
	1月7日	七草	七草けんちん汁、鶏のから揚げ
2月	複数日	冬メニュー	寄せ鍋風煮、冬野菜料理
	2月3日	節分	恵方巻き、野菜の炒り煮、すまし汁、鬼面抹茶ムース
3月	3月3日	ひな祭り	春の散らし寿司、南瓜のそばろ煮、すまし汁、お節句レアチーズケーキ
	3月27日	力士交流会	ちゃんこ鍋
	複数日	春メニュー	春野菜料理

※ 毎月誕生日会に手作りケーキ、注入者へはジュース提供

院内約束食事箋及び行事食写真

一般食

食種	熱量 kcal	
常食	A	1500
	B	2000
全粥食	1380	
ペースト食	1190	
流動食	770	
低カロリー食	1200	

特別治療食

食種	熱量 kcal
脂質異常食	1400
低脂肪食	1572

手作りおやつシリーズ

クリスマス

七夕

子どもの日

訓練課

常勤セラピスト各々が自己研鑽することができた。また利用者様についての情報共有も行うことができた。平成30年度は2名の常勤PTが入職したが、9月に1名退職した。セラピスト間での支援体制が十分でなかったと考えている。

対外的な発信として、障害者文化祭、作品展、NPOによるパラリンピック事業への参加等を行った。引き続き作品展への応募、学会等での積極的な参加や発表、就職説明会への参加などの対外的な発信を継続して行っていく。

【PT】

4月より常勤PTが2名入職したが、9月末に1名退職し、現在常勤1名で訓練を行っている。

PTでは個別訓練のみを行っており、利用者様1人ずつの運動・姿勢面での問題点の把握や性格的特性、生活リズムの理解を行い、その上で治療プログラムを計画し、実行している。訓練内容としては、脊柱側彎や関節の変形・拘縮の進行防止・改善、呼吸機能や現在の移動能力の維持・改善を目的に、関節可動域訓練、ボイタ法、上田法、呼吸リハビリテーション、筋力増強、マッサージ、起居動作・立位・歩行訓練を行っている。また夏季にはOTと協力して、プールでの水中運動療法も行っている。

病棟では、整形の澤井医師からの要請もあり、病棟スタッフや御家族様の協力により、利用者様のポジショニングの見直しや検討を行う事が出来た。利用者様が使用する座位保持装置の仮合せの際には、クッションや座面の評価もOTと協力して行えた。

食事姿勢に関してもSTと連携し、利用者様の食事姿勢を検討する事ができた。

自己研鑽の機会としては、重症心身障害療育学会学術集会や全国重症心身障害児者施設職員研修会、ボイタ法リフレッシュ講習会などに参加をさせて頂き、他施設での有意義な取り組みや他職種連携などの理解を深め、技術向上を図る事ができた。また、OTと合同で行っている月2回の症例検討会では、非常勤の下浦先生の指導の元、利用者様のより良い評価・問題点抽出・治療方法が明確になり、日常の業務に活かされている。

【OT】

利用者様への理解をさらに深めるための定期的な症例検討会を実施することができた。しかし、回数は十分とは言えないため、今後は症例検討の時間の確保に積極的に努める。

グループ訓練では年間を通して取り組み、各利用者様方が持つ能力や特性を活かすことができた。方法や道具の工夫をし、より多くの利用者様がグループ訓練に参加できるよう努めた。昨年度の課題（スケジューリング、管理方法、参加者の偏り）は概ね解決できた。

栄養課とは、今年度も『畑プロジェクト』を通じて、園芸で収穫した作物を喫茶店や茶話会で加工して提供するなど、連携することが出来た。

【ST】

利用者様の個別性に合わせ、評価・訓練の立案を行ってきた。

食事に関しては、安全性を第一に考えたうえで、それぞれの随意的な動きの引き出しや、コミュニケーションを楽しめるようにかかわってきた。

病棟担当者をはじめ、病棟職員や多職種とも利用者様の状態等を共有することに努めた。

病棟活動に参加することで、普段の日常の様子や訓練場面と違った姿を見ることができたり、訓練でできていることを病棟に伝えたり実践することで、少しではあるが病棟職員にも日常と違う様子を見てもらう機会となった。

今後も、引き続き病棟職員や多職種との連携を深め、利用者様とのかかわりを充実させていきたい。

他職種との連携

利用者様の生活について病棟職員とともにポジショニングや日常生活上の対応などについて検討した。また、病棟をはじめとする他職種とのコミュニケーションを図り、情報を共有できる、協力体制作りの一つとして、病棟カルテにリハビリテーション報告書を入れた。これを通じて、情報共有が深まることを期待している。

養護学校の先生方とも連携し、就学児の発達を促せるよう具体的に話し合い、進めていきたい。

地域支援

短期入所

昨年に比べ、短期入所を利用された方が9名増加している。昨年よりショート診察を待たれていた方々は、今年に全員診察を終えることができたが、同時に、予約がほぼ埋まる登録数に達しており、新しい利用希望者の受け入れはいったん控えている状況である。短期入所は空床利用型であるが、1階病棟、2階病棟の受け入れ体制において受け入れ定数が変動し、以前のように希望通りに利用できる状況ではなくなっている。1・2月にはインフルエンザの流行もあって、こちらから利用をお断りすることもあったが、最終的にはショート利用者の延べ人数（192名）、延べ日数（735日）とも昨年と大きく変わっておらず、新しく利用された方々が、コンスタントに利用されている状況が伺える。

一方でショート利用者が増えるに従って、利用期間中の忘れ物や紛失等が増えてきており、利用者・職員お互いが負担にならない荷物確認の方法を模索している。また、市場原理に任せた予約方法では、本当に利用したいときに利用できない方も増えてきており、利用頻度を含めた調整が必要となってきた。本年度より限りある資源の中で調和のとれた利用を目指すために、「重症心身障害児・者に係る連絡協議会」に参加し、奈良県内の重症児・者施設の現場レベルの職員の情報共有・意見交換を行っている。

相談支援

基本相談においては、入所の受け入れや短期入所の受け入れに関する相談が多く、ショート診察を受けた方は10名おられる。中でも身体は動くが医療的ケアが必要なため、他の施設では受け入れてもらえない児童の相談が増えてきている。中には母子入院まで行いながら、夜間の職員対応が難しいと判断し、利用をお断りしたケースもあった。

計画相談に関しては、施設入所者が60名と在宅の方が1名、他施設に入所の方1名の計画に携わっている。精神障害の方の計画作成依頼もあったが、初回面談において信頼関係が築けず、結局利用には至らなかった。

「まほろばレスキュー事業」において、地域包括支援センターから声がかかり、生活に困っている方に栄養

課で余剰のあったサンプル食品を届けた。また、自立支援協議会と相談し、施設で使わなくなった車イスを善意銀行にお譲りした。

平成31年度 地域支援 目標

- ・入所調整会議を適宜開催し、情報の共有をはかる
- ・「重症心身障害児・者に係る連絡協議会」に参加し、ネットワークを構築する
- ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業に参加する
- ・まほろばレスキュー事業に継続参加し、社会福祉事業の本来の目的を果たす

H30年度 ご利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1病棟	在院患者延べ数	832	847	867	899	899	850	854	777	872	888	770	885	10,240
2病棟	在院患者延べ数	1,158	1,209	1,169	1,209	1,206	1,170	1,209	1,170	1,191	1,181	1,071	1,185	14,128
合計	在院患者延べ数	1,990	2,056	2,036	2,108	2,105	2,020	2,063	1,947	2,063	2,069	1,841	2,070	24,368

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月末在院患者数	66	67	68	68	68	67	65	67	67	66	66	67	66.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
外来患者数	102	111	98	97	128	94	104	248	151	76	94	117	118.3

院内研修実施報告

30年度 園内研修年間報告

No.	研修項目	担当課・委員	日程	曜日	時間	実施人数
1	行事委員の取組	行事	4月18日	水	17:45~	26
2	診療報酬について	医事	4月25日	水	17:45~	15
3	サービス等利用計画について	地域支援	5月9日	水	17:45~	11
4	個別支援計画について	個別支援	6月6日	水	17:45~	9
5	褥瘡対策	褥瘡対策	6月27日	水	17:45~	18
6	医療安全について	医療安全	7月11日	水	17:45~	13
7	感染対策について	感染	8月8日	水	17:45~	14
8	虐待対策について	虐待防止	8月29日	水	17:45~	23
9	避難確保計画	防災委員	9月12日	水	17:45~	14
10	栄養管理体制について	栄養	10月10日	水	17:45~	10
11	研修報告	療育	11月21日	水	17:45~	9
12	訓練課の取り組み	訓練課	2月27日	水	17:45~	16
13	医療安全（ヒヤハット）	医療安全	3月13日	水	17:45~	15
14	障害者総合支援法について	地域支援	3月20日	水	17:45~	9

平均参加者数 14.4

防災訓練実施報告

平成30年度	回数	参加人数	実施日
避難訓練	13	119	4/4・5/15・6/19.7/17.9/18・10/16.11/22.12/18.1/22.3/19
通報訓練	8	66	4/4・4/19・5/15・6/19・.11/22.12/18.1/22.3/19
消火訓練	9	81	4/4・5/15・6/19・7/7・.11/22.12/18.1/22.2/20.3/19
防災訓練	14	111	4/4.5.5./15.6./19.7/17.8/21・9/18.10/16.11/22.3/19

- H30.6.19 防犯訓練 不審者侵入時のサスマタ体験 防災 6/18の地震について話し合う
- H30.7.6 豪雨(大雨警報)・17:00 臨時医療安全会議(夜間・土日対策)非常食・食器・酸素ボンベ3本親のルームに準備
- H30.7.17 排水管つまりポンプくみ出す
- H30.9.12 園内研修「土砂災害に関する避難確保計画」

訓練テーマ

H30.4.4 新入職員対象消防設備、避難経路オリエンテーション	5	避・通報・消・防災
H30.5.15 防災委員と当日スタッフと消防オリエンテーション/水害土砂災害対応について	6	避・消・通報・防災
H30.6.18 地震:朝、信号がとまり職員の通勤に影響、ガス止まり職員ですぐに復帰・エレベーターが自動的に止まり作業員が到着まで動かない。		災害
H30.6.19 防犯訓練 不審者侵入時のサスマタ体験 6/18の地震について話し合う。消防設備・避難経路確認	8	避・通報・消・防犯
H30.7.6 水害:豪雨・大雨警報 17:00臨時安全会議(夜間・土日対策)非常食・酸素ボンベ2階親のルームへ移動。垂直避難なし被害なし	13	災害
H30.7.15 職員駐車場・排水管つまり ポンプでくみ出す	2	災害
H30.7.17 消防設備避難経路点検確認 災害時の状況判断について(まわりの状況、職員数、施設の状態・交通機関)	6	避・防災
H30.8.21 消防設備避難経路点検確認 土砂災害時の垂直避難シュミレーション	5	避・防災
H30.9.12 園内講習:「土砂災害に関する避難確保計画」	14	避・防災
H30.9.18 垂直避難訓練・消防設備点検	5	避・通報・消・防災
H30.10.16 消防設備・避難経路確認点検・確認 垂直避難訓練の対策(コンセントとベッド配置)	12	避・通報・消・防災
H30.11.20 消防設備・避難経路確認点検 垂直訓練シュミレーション	5	避・通報・消・防災
H30.11.22 垂直避難・発電機作動訓練(日中想定全体訓練)	20	避・通報・消・防災
H30.12.18 消防設備・避難経路確認点検 全体訓練シュミレーション	5	水害・土砂災害
H31.1.22 初期消火・避難誘導(夜間想定全体訓練)	15	避・消・
H31.2.19 病棟分離で中止	0	
H31.3.19 消防設備・避難経路点検・2018年評価・安全点検票内容の見直し	5	避・通報・消・防災

126

実習・見学ほか

奈良県立高円高校 (評議員)

東市地区社会福祉協議会 (評議員)

【実習】

関西学研医療福祉学院 (作業療法士臨床実習) 平成30年5月7日～9月15日 2名

関西学研医療福祉学院 (介護実習) 平成30年6月25日～6月29日 2名

ハートランドしぎさん看護専門学校 (小児看護学実習) 平成30年7月18日～11月14日 35名

奈良佐保短期大学 (介護実習) 平成30年8月27日～9月13日 2名

近畿大学 (臨床栄養学) 平成30年10月1日～12日 2名

関西学研医療福祉学院 (介護実習) 平成30年10月29日～11月2日 2名

奈良佐保短期大学 (保育実習) 平成30年11月5日～11月16日 3名

帝塚山大学 (保育実習) 平成31年2月18日～3月15日 5名

【見学】

橿原市役所障害福祉課 平成30年5月21日 3名

奈良市飛鳥中学（福祉施設交流体験学習） 平成 30 年 11 月 2 日 10 名

奈良佐保短期大学（地域こども学科） 平成 30 年 6 月 14 日・6 月 28 日 20 名

名古屋市民生委員 平成 30 年 11 月 18 日 19 名

明日香養護学校（施設見学） 平成 30 年 12 月 25 日・27 日 3 名

地域交流

平成 30 年 7 月 28 日（土）納涼祭 台風のため中止

平成 30 年 10 月 27 日（土）バルツァフェスティバル 109 名

平成 30 年 12 月 15 日（土）クリスマス会 45 名

平成 31 年 3 月 25 日（月）力士交流会 96 名

平成 30 年 8 月 16 日（水）東市高円の杜夏まつり出店

平成 30 年 10 月 7 日（日）鹿野園町秋祭り（神輿巡行）

平成 31 年 2 月 8 日（水）東市地区各種団体新年交流会

寄付・助成金等

事業名	名称	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	電子ピアノ 80,000 円